

財務会計 I (商業科) シラバス

| | | | |
|----|--|----|--|
| 校長 | | 教頭 | |
|----|--|----|--|

| | | |
|--------|----------|------------|
| 財務会計 I | 単 位 数 | 2 |
| | 学科・学年・学級 | 商業科・3年(選択) |

1 学習の到達目標等

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | 1. 財務諸表の作成に関する知識や技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させる。 2. 財務諸表から得られる会計情報を、ビジネスの諸活動に活用できる能力と態度を育てる。 |
| 使用教科書・副教材等 | 7実教 317新財務会計 I |

2 成績評価

- (1) 定期テスト
各学期、中間考査・期末考査を実施し、授業内容を中心に出題する。
- (2) 小テスト
授業の中で、章ごとの小テストを各章終了後に随時実施する。各章の理解度を把握・評価し、学習意欲の向上を図る。
- (3) 提出物
授業の進度に応じ、自宅学習として課したものや、長期休業中(夏季・冬季)の課題について提出させる。
- (4) 学習の状況
授業への参加意欲、発問などの主体的な姿勢を評価する。
- (5) 資格取得
取得目標資格を「全商協主催 簿記検定 1級会計」に設定し、目的意識を持たせる。

3 使用教科書・教材

- (1) 教科書：新財務会計 I (実教出版)
- (2) 問題集：反復式 学習と検定 会計問題集 全商1級 (実教出版)

4 授業の展開と形態

少人数の選択授業で全商簿記1級(会計)を目指す。

5 学習方法

- (1) 年度初めに、「会計」を学習するにあつたのガイダンスを行う。
- (2) 理解度に応じて進度を変更し内容理解の徹底を図る。

6 年間指導計画

| 学期 | 学習内容 | 月 | 時間 | 学習のねらい・目標 |
|------|-----------------------------------|---|----|--|
| 第1学期 | 第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計 | 4 | 6 | ○ 企業会計の意味と役割を理解させる。 ○ 財務会計の機能と会計準則の内容について理解させる。 ○ 企業会計の発達の歴史について、その概略を明らかにする。 |
| | 第2章 企業会計制度と会計法規 | | | ○ 企業会計制度の意味を理解させる。 ○ 会計法規の必要性を理解させ、その種類と内容について、概略を理解させる。 ○ 企業会計原則および企業会計基準の役割と内容を明らかにし、一般原則の内容について理解させる。 ○ 財務諸表の種類を明らかにする。 |
| | 第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし | | | ○ これから学ぶ貸借対照表の役割や区分表示、様式など、その概略について理解させる。 ○ 貸借対照表の項目である資産・負債・純資産について学習することを明らかにする。 |
| | 第4章 資産の意味・分類・評価 | 5 | 8 | ○ 資産の意味・分類を理解させる。 ○ 資産評価の意味・基準を明らかにし、その重要性を理解させる。 |
| | 第5章 流動資産 (PART1) 当座資産 | | | ○ 当座資産の意味と種類を明らかにする。 ○ 現金預金・受取手形・売掛金・有価証券の評価と記帳方法について理解させる。 |
| | 第6章 流動資産 (PART2) 棚卸資産・その他の流動資産 | | | ○ 棚卸資産の意味と種類を明らかにする。 ○ 棚卸資産の取得原価と費用配分の原則について理解させる。 ○ 棚卸資産の払出価額と期末棚卸高の計算方法を理解させる。 ○ 商品評価損・棚卸減耗費の意味とその処理法及び記帳法を習熟させる。 ○ 売価還元法を理解させる。 ○ その他の流動資産の意味と種類を明らかにし、記帳に習熟させる。 |
| | 第7章 固定資産 (PART1) 有形固定資産 | | | ○ 有形固定資産の意味・種類を明らかにし、取得原価の計算について理解させる。 ○ 資本的支出と収益的支出の意味を理解させる。 ○ 有形固定資産の期末評価を理解させる。 ○ 減価償却の意味を明らかにし、計算方法に習熟させる。 ○ 固定資産の除却と買い換えの記帳方法に習熟させる。 |
| | 第8章 固定資産 (PART2) 無形固定資産 | 6 | 6 | ○ 無形固定資産の意味と種類を明らかにする。 ○ 無形固定資産の取得原価に触れ、特にのれんに関する計算と記帳に習熟させる。 ○ 無形固定資産の期末評価について理解させる。 |

| | | | | |
|---------------|---|----|---|--|
| 第1学期 | 第9章 固定資産 (PART3)投資その他の資産 | 6 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 投資その他の資産の意味と種類を明らかにする。 ○ 投資有価証券の期末評価について理解させ、その記帳に習熟させる。 ○ 子会社株式・関連会社株式の期末評価について理解させる。 |
| | 第10章 負債の意味と分類 | 7 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 負債の意味と分類を明らかにし、分類基準を理解させる。 |
| | 第11章 流動負債 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 流動負債の意味と種類を明らかにする。 ○ 引当金の意味を明らかにし、役員賞与引当金の記帳について理解をはかる。 ○ 保証債務の記帳法を理解させる。 |
| 第12章 固定負債 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 固定負債の意味を明らかにし、その記帳に習熟させる。 ○ 社債の発行・利払い・期末評価・償還の記帳方法を理解させる。 ○ 長期借入金・退職給付引当金の記帳に習熟させる。 ○ 偶発債務の意味とその記帳法を理解させる。 | |
| 第2学期 | 第13章 純資産の意味と分類 | 9 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 純資産の意味と分類を明らかにする。 ○ 株主資本とそれ以外の区分の概要を理解させる。 |
| | 第14章 資本金 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 株式会社の資本金について理解させる。 ○ 資本金の増加・減少の処理方法に習熟させる。 |
| | 第15章 資本剰余金 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 資本剰余金の意味と分類を明らかにする。 ○ 資本準備金とその他資本剰余金に関する処理方法に習熟させる。 ○ 会社の合併の意味と記帳法に習熟させる。 |
| | 第16章 利益剰余金 | 10 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 利益剰余金の意味と分類を明らかにする。 ○ 利益準備金、任意積立金に関する基本的な記帳法を理解させる。 ○ 剰余金の配当の意味と記帳法について理解させる。 |
| | 第17章 自己株式 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己株式の意味を理解させる。 ○ 自己株式の取得・処分・消却の意味を明らかにし、それぞれの記帳に習熟させる。 |
| | 第18章 貸借対照表の作成 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 棚卸法と誘導法を理解させる。 ○ 貸借対照表作成上の原則や注記などについて理解させる。 ○ 貸借対照表の作成について、会社計算規則による場合を中心に習熟させる。 |
| | 第3編 損益計算書 第19章 損益計算書のあらまし | 11 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 損益計算書の役割・区分・様式など、その概略を明らかにする。 |
| | 第20章 損益計算の意味と基準 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 損益計算の意味を明らかにし、収益・費用の認識および測定基準、さらに、費用収益対応の原則について理解させる。 |
| | 第21章 売上高 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 売上高を計上する基準について理解させ、記帳や計算などに習熟させる。 ○ 工事収益の計算と記帳に習熟させる。 |
| | 第22章 売上原価、販売費及び一般管理費 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 売上原価の意味と販売費及び一般管理費の種類について整理する。 |
| | 第23章 営業外収益・営業外費用 | 12 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 営業外収益・営業外費用の意味・種類を明らかにする。 ○ 経常利益・経常損失の意味を明らかにする。 |
| | 第24章 特別利益・特別損失 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別利益・特別損失の意味・種類を理解させる。 ○ 損益計算書の税引前当期純利益から下の表示について理解させる。 |
| 第25章 損益計算書の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 損益計算書作成上の原則や注記などを理解させる。 ○ 損益計算書の作成について、会社計算規則による場合を中心に習熟させる。 | | | |
| 第26章 その他の財務諸表 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 株主資本等変動計算書の意味とその作成方法を理解させる。 ○ 注記表・附属明細書の記載内容に触れる。 | | | |
| 第3学期 | 第4編 財務諸表の活用 第27章 財務諸表のディスクロージャー | 1 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 企業と利害関係者およびディスクロージャーについて理解させる。 |
| | 第28章 財務諸表分析 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 財務諸表分析の意味・方法を明らかにする。 ○ 関係比率法・実数法による分析の種類を明らかにし、それぞれの計算方法について理解させる。 |
| | 第5編 連結財務諸表 第29章 連結財務諸表のあらまし | 2 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 連結財務諸表の意味や目的を明らかにし、連結財務諸表の概略を理解させる。 ○ 親会社と子会社の意味、さらに連結財務諸表の重要性を理解させる。 |
| | 第30章 連結財務諸表の作成 PART1 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 連結貸借対照表の作成手続きを理解させる。 ○ 子会社の資産・負債の時価評価による評価替えのための連結仕訳を理解させる。 ○ 投資と資本の相殺消去の手続きについて、持株比率が100%の場合と100%未満の場合に分けて理解させる。 ○ 連結精算表の作成手順について理解させる。 |
| | 第31章 連結財務諸表の作成 PART2 | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 支配獲得日から1年経過後における連結貸借対照表作成について、その手続きの概略を理解させる。 ○ 開始仕訳の必要性と意味について理解させる。 ○ 当期分の連結仕訳として、のれんの償却、非支配株主に帰属する当期純利益の計上、親会社と子会社相互間の債権・債務の相殺消去、親会社と子会社相互間の仕入と売上の相殺消去、未実現利益の消去、子会社の配当金の修正について理解させる。 ○ 連結貸借対照表と連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書のひな形を確認し、連結精算表から連結財務諸表を作成させる。 |
| | 総合演習 I, II | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1か月分の取引の記帳と決算を行う問題 ○ 財務諸表の作成とそれを分析する問題 |
| 合計 | | 70 | | |